




令和6年4月10日

有田川町議会議長  
谷畑 進 殿

有田川町議会議員  
岡 省 吾 

令和5年度政務活動費に係る収支報告書について

有田川町議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項の規定により別紙のとおり令和5年度政務活動費収支報告書を提出いたします。

令和5年度政務活動費収支報告書

有田川町議会議員  
岡 省 吾

1. 収入

政務活動費 72,000円

2. 支出

科 目	支 出 額	備 考
調査研究費	22,691円	11/20 和歌山県白浜町 交通費 宿泊1泊 日当2日分
研 修 費	0円	
要請陳情等活動費	0円	
会 議 費	6,000円	有田地方観光振興議員連盟 年会費
資料作成費	0円	
資料購入費	0円	
広報・広聴費	0円	
事 務 費	0円	
合 計	28,691円	

3. 残金

43,309円

4. 政務活動の実施内容

(別 紙)

\* 領収書の写しを添付のこと。

注) 備考欄には、主たる支出の内容を記載する。

～内訳～

◎調査研究費

日程：令和5年11月20日～21日（1泊2日調査研修）

行き先：和歌山県白浜町、田辺市

経費：

交通費

藤並駅～紀伊田辺駅（JR） 1,170円

紀伊田辺駅～白浜駅（バス） 520円

白浜駅～とれとれ市場～南紀白浜空港～白浜町役場～ホテル紀伊田辺～  
秋津野ガルテン～紀伊田辺駅（車） 27.7km \*車賃1kmあたり30円  
831円

紀伊田辺駅～藤並駅（JR） 1,170円

宿泊費（1泊）

15,000円×1日 15,000円

日当（1日分）

2,000円×2日 4,000円

合計22,691円

◎会議費

有田地方観光振興議員連盟 年会費 6,000円

合計6,000円

領 収 証

岡 崎 君

様

No. \_\_\_\_\_

★

16,000-

内 訳	_____
現 金	_____
小切手	/
手 形	/

但

親戚訪問に

5年 5月 12日 上記正に領収いたしました

収入印紙

消費税額等 ( % )

有田地方観光振興議員連盟



(別紙)

## 令和5年度 政務活動研究報告書

### ◎政務調査の実施内容

実施者氏名：栗山 昌之、濃添 勇作、岡 省吾、有田地方観光振興議員連盟議員

実施年月日：令和5年11月20日、21日

実施場所：とれとれ市場、南紀白浜空港、白浜町役場、秋津野ガルテン

研修先説明者：早和果樹園 代表取締役会長 秋竹 新吾 氏

南紀白浜エアポート 誘客・地域活性化室 室長 森重 良太 氏

白浜町役場 観光課 課長 新田 将史 氏

実施内容：観光振興、定住促進などの取り組みに関して、先進地である白浜町と田辺市に赴き、視察調査を行いました。なお、今回の視察は、有田地方観光振興議員連盟の有志議員、有田川町議会から3人が参加しての合同視察研修となりました。

～11月20日～

#### \*「南紀白浜とれとれ市場で出店している早和果樹園会長に聞く」

説明者：早和果樹園 代表取締役会長 秋竹 新吾 氏

場 所：白浜とれとれ市場

#### ～とれとれ市場での出店で～

##### ◎早和果樹園とは

有田市官原町に拠点を置き、みかんの生産・加工・販売まで、みかんのすべてに関わる「みかんの6次産業」を柱として農業経営をされている。

##### ◎南紀白浜とれとれ市場に出店

2020年7月に「早和果樹園 南紀白浜店」として、とれとれ市場内に店舗を出店。

ジュースやポン酢、ゼリーなど早和果樹園主力の商品が陳列されています。

店長は女性で有田市から通っているようです。

##### ◎秋竹会長から話を聞く

秋竹会長は古くからみかん栽培に従事し、加工・販売を手掛けるようになって、国内外に広く早和果樹園の商品を流通させております。

長年のつながりの中で、とれとれ市場出店の運びとなり、2020年7月に店舗を構え、多くの観光客に販売されています。やはり、コロナ禍の影響が店舗経営を悪化させ、経営状況が非常に苦しかったとのことで、観光客数の激減により、店舗での販売収益が上がらない中、ネット通販を中心として、その窮地を凌いだとのことであります。

現在は、観光客もコロナ以前に戻り、それに比例して売り上げも伸びております。

秋竹会長は、みかんを通じて、有田ブランドを少しでも多くの皆さんに広め、有田に足を運んでもらいたいといひます。現に、白浜店で買い求められた他県のお客さんが、後日、わざわざと有田市の本社まで来られたという例も紹介され、観光振興の一端も担われていることを知りました。また、とれとれ市場は海外からの観光客も非常に多く、加工商品の価格は若干、高めに設定されているものの、本物志向の観点から、また折からの海外景気の良さも手伝ってか、帰国されてのリピーターとして商品を買求める方も多く、加工品を海外向けに販売されているようでもあります。

みかんを通じてたくさんの笑顔を届けたいという会長の言葉が印象に残りました。

## \* 「ワーケーションを手掛け地域を活性化させる」

説明者：南紀白浜エアポート 誘客・地域活性化室 室長 森重 良太 氏

場 所：南紀白浜空港会議室

### ～ワーケーションによる新たな地域活性化～

#### ◎講師は地域活性化プロフェッショナル

講師の森重氏は、持続可能で稼げる地域づくりに向けて、地域の社会貢献と都市の企業課題の同時解決を目指したワーケーション・企業誘致・定住促進の仕組化を推進している。

これまでも、地域コーディネーターとして、200社3000件の実績を持ち、全国30自治体の地域づくりアドバイザーや事業づくり・人づくりの講師も務めており、白浜空港を拠点として、誘客と地域活性化を手掛けるプロフェッショナルで、和歌山県発のワーケーションを世に広めた草分け的存在であります。

#### ◎ワーケーションとは

「ワーク」(仕事)と「バケーション」(休暇)を組み合わせた造語。観光地やリゾート地でテレワークを活用し、働きながら休暇をとるワークスタイル。

#### ◎ワーケーション誘致の価値

人口減少が進む地域において、関係人口・企業誘致を通じて、地域課題を解決しながら、同時に事業・雇用を創出。和歌山で手掛けるワーケーションは、企業誘致がゴールではなく、雇用創出や移住・定住に重きを置いた中長期的な持続可能な地域づくりにあるといえます。

#### ◎企業によるワーケーションの現状

地域の実情を理解し、地域活性化に貢献することを主眼に置いて、それに賛同する企業が和歌山県下に数多く進出しています。

聞くところ、和歌山市に22社、白浜町に18社、田辺市に6社の合計46社が都会から進出され、各々の地域で地域活力の源泉として、活躍されているようであります。

講師先生曰く、このように社会貢献を社是としている企業は、特に過疎化に悩む地域を基軸としてのワークスタイルを求められている企業が多いんだといえます。

## \* 「白浜町における観光振興」

説明者：白浜町役場 観光課 課長 新田 将史

場 所：白浜町役場

### ～都市圏におけるPR活動を重視～

#### ◎和歌山県屈指の観光のメッカでも…

和歌山県の観光名所といえば、白浜町が真っ先に思いつくのではないのでしょうか。

そんな白浜町でも、コロナの影響で一大観光地に暗い影を落としました。

現在は、コロナ以前の状況に戻りつつあると、説明くださった観光課長の話にありましたが、今後の白浜町の観光に関して、観光客数の頭打ち感。課題も多くあるようです。

我々の感覚では、白浜はパンダはもちろんのこと、三段壁、千畳敷、円月島などの景勝地、日本でも指折りの温泉と観光資源にあふれていると感じます。

しかしながら、東京などの関東地域では、その認知度も高くないんだということでもあります。そのようなことから、南紀白浜空港の東京便が増便されることも相まって、白浜町では都市圏におけるPR活動を重視しているんだといえます。

また、高速道路の4車線化改修に伴い、関西圏からずいぶんと来やすくなったことで、日帰りの観光客が増え、宿泊者数が少ないんだともいえます。

我々の想像にない、そのような白浜観光の現状があることを知ったわけではありますが、

白浜町では、今、閑散期における観光客確保の動きを模索しているようです。

夏場のシーズンは、当然ながら、海水浴や花火大会のイベントなどで非常に多くの観光客で賑わうわけでありますが、冬場となりますと、観光客が激減するという一方で、冬場の集客に向けた取り組みを模索。そこには行政と地域と各団体の一体化した取り組みが求められます。

また、観光客の夜の交通手段の課題もあるようです。そこで、夜の飲食店の移動を確保する一環として、2月～3月の期間限定ながら、白浜温泉周遊無料ナイトバスを巡回する試みをテスト的に開始することもお聞きいたしました。

～11月21日～

### \*「田辺市秋津野ガルテンを視察する」

#### ～廃校舎を利用した施設～

##### ◎歴史を感じる木造の二階建て廃校舎

田辺市の上秋津地域にある秋津野ガルテン。昭和28年に建てられた二階建て木造校舎はノスタルジックで、まるで昭和時代にタイムスリップしたような感覚を覚えます。

この廃校舎は2008年に地域住民が出資し、リノベーションした施設であります。

農家レストランは地元の主婦の方々が、地元の有機野菜を利用したバイキング式料理の提供を。さらにはみかんのゼリーやジュース、お菓子・スイーツ作りなどの体験工房や、新しく併設された宿泊施設もあり、廃校利用の優良事例として、全国各地からの視察も多いようです。

旧校舎の二階は、みかん作りの歴史を紹介する資料館として解放されており、地域産業のこれまでを知ることができます。

この旧校舎は2020年に国の登録有形文化財に指定され、その歴史的価値を改めて、窺い知るところでもあります。

都市と農村の交流を目指したグリーンツーリズム施設として脚光を浴び、ワーケーションとしても活用できる空間は、都市部の企業も注目をされるものと思います。

#### <このたびの研修を振り返って>

有田川町の人口ビジョンでは2060年の人口を2万人以上とすることを掲げております。

高い目標設定を掲げ、目的に進んでいくことは非常に重要であります。人口減少の社会情勢を勘案すると、目標達成のためには、かなりハードルが高いことも痛感いたします。

「ひと・まち・しごと総合戦略」に合致した今回の研修は、地域における幾多の課題解消に向けた糸口を探れる内容であったと思います。

過疎地域の置かれた現状は非常に逼迫しており、過疎地対策は待ったなしあります。

移住を促進するためには、安定した生活を営める仕事の確保を。そこには企業によるワーケーションの誘致であったり、農業・林業など第一次産業の保護や支援が必要であります。観光振興にあっては、観光のメッカである白浜町でさえ、苦戦している状況をお聞きし、乏しい観光資源の有田川町でどう観光振興策を講じていくか、非常に悩ましいところでもあります。新しみず温泉を拠点とした観光施策を期待しつつ、観光客側の目線に立ったきめ細やかな運営体制が求められるところでもあります。

また、町内の廃校舎利活用も現在、各所で行われており、地域の活力を取り戻すため有効であることが示されております。

このように、山間過疎地を取り巻く現状は厳しくとも、一手を講じていくことで成果も現れてくることで、徐々にでも地域活性化に繋がればありがたく、このたびの研修は、有田川町の置かれた今後の課題を考える上で大変貴重な研修となりましたことをここに申し添え、誠に簡単ながら政務視察研修報告といたします。